
新米神様奮闘記・其の六「行脚」

じかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新米神様奮闘記・其の六「行脚」

【Zコード】

N7195X

【作者名】

じかん

【あらすじ】

新米の神様とその眷族が旅立った。自サイトにも掲載しています。

いよいよ新米の神様と、その眷族の行脚の一歩の日を迎えた。犬が神様に訊いた。

「神様、その井出たちは、如何いたしましたか」

「僕は町人の化生で行きます」

「分りました」と犬は納得した。

「神様、僕は虎に化生してもいいですか」

猫は神様に訊いた。

「虎はダメだな。ものすごく目立つから」

「じゃあ、獅子は」

「獅子もダメだね。はげしく目立つから」

猫はしょんぼりして「分りました。猫でいいです」

「蛇さんは、どうしますか」

神様は蛇に訊いた。

「私は姿を隠して参ります」

「そうですか。分りました。カラスさん、君はどうする」

「僕もこのままいいです。気が変わったらお知らせします」

「分りました。みなさん参りましょう」

新米神様御一行の行脚が始まり、旅は順調に進み茶屋があつたので、休憩していた

ら、少し離れた処で、侍と侍の言い合いが起つた。近くには品のある二人の若い女がある

居て、おろおろしており、合わせて四人が当事者だ。

道行く人たちの中には、面白半分に見物を決め込んでいる人も現れて、人が集まつて

来た。二人の侍の声が大きいのでも分かるが、揉め事の原因は一人の

何処かがぶつかつた

ようで、お主の方からぶつかつた、いや、お主の方だと埒が明かない。侍の連れの一人の女がしゃがんで泣き出し、もう一人の侍の女が慰めているが、二人の侍は大して気にも掛けない様子。

少し若い侍の方が柄に手を掛けると、相手の形相が変わり柄を握り、遂には二人とも

刀を抜いて構えた。すると何処からとも無く猫が三十匹ぐらい現れて、侍の足にじられ

ついたり身体を駆け上がつたりした。一人の侍は驚いたり慌てたりと、刀を落としてし

まい、すっかり毒氣を抜かれて意氣消沈して、一人の侍は刀を鞘に納めて、それぞれ連

れの女と共に言葉も無く別方向に分れた。

「猫さん、偉いね、大したもんだ。の方々は君の友達だね。これを友達と食べるとい

いよ」

神様は眷族の猫の労をねぎらい頭と喉を撫でて、魚の干物を大量に上げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7195x/>

新米神様奮闘記・其の六「行脚」

2011年11月17日18時44分発行